

幼稚園における食育実践プログラムの 教育効果の検討

海陸 留美 伊藤 京子 東保 美香 浜野 香奈

An Examination of the Educational Effects
of Practical Food Education Programs in Kindergartens

KAIRIKU Rumi ITO Kyoko TOBO Mika HAMANO Kana

【要 旨】

本研究は、別府大学短期大学部食物栄養科学学生が主体となり、別府大学附属幼稚園の園児を対象にして実施した食育実践プログラム「もぐハピこどもキッチン」の内容について、参加した幼稚園教諭と学生からアンケート調査票による回答を得て、教育効果の検討を行うことを目的とした。令和5年4月～令和5年8月までに実施した前期プログラムの内容について、参加しアンケート調査の研究利用に同意した幼稚園教諭6名、食物栄養科2年生51名を解析対象とした。園児に対する食育実践の評価（幼稚園教諭の評価）では、園児の関心度、参加態度が良い評価であり園児が食育の内容に興味・関心を持ち積極的に参加したことがわかり、ねらいと到達目標は概ね達成したことが伺えた。また、各年齢児の発達段階に対応した食育の内容であることもわかった。保護者への資料提供による食育支援の内容も概ね良好な評価が得られた。学生自身の食育実践力の自己評価では、以前と比較して幼児期の各年齢の成長・発達に応じた食事と食習慣の形成に関する基礎的な内容の理解、食に関する内容を園児にわかりやすく伝える力、園児に対する主体的な食育実践力について向上したことが示唆された。

【キーワード】

幼稚園、幼児期、食育、食育実践プログラム、もぐハピこどもキッチン、教育効果

1. はじめに

本科で栄養士を目指す学生たちの就職先として高い割合を占めるのが保育・教育施設の栄養士であるが、卒業生からの意見を聴取すると、就職後に困ったこととして「子どもたちに具体

的にどのように食育を実践したらよいかわからない。」という意見が聞かれた。このような卒業生からの意見を受けて、本科の教育課程において、園児に対する食育を取り入れ、実践力を高める教育内容を設ける必要があると考えられた。

そこで、これまで別府大学附属幼稚園からの

依頼を受けて管理栄養士教員が主体となり実施していた食育活動（４歳児のさつまいもおやつづくり、５歳児のみそづくり）に新たな食育の内容を加えて、授業の一環で学生が主体となり食育実践に取り組めるように再編成した。令和４年度より別府大学附属幼稚園の協力を得て、３歳児、４歳児、５歳児の園児を対象にした食育実践プログラムを「もぐハピこどもキッチン」と名付け、食育活動を実践した。園児に対する

食育実践だけでなく、家庭でも園で実施した食育内容を繰り返し実践できるような資料提供を行い、家庭における食育の支援を行った。

食育実践プログラムのねらいは、①幼児期に食育で育みたい資質・能力を養うこと、②幼稚園における食育を家庭につなぎ食育を支援すること、③栄養士を目指す学生の食育実践力を向上させることにある（図１）。

ねらい①に対応する「園児の到達目標」の設

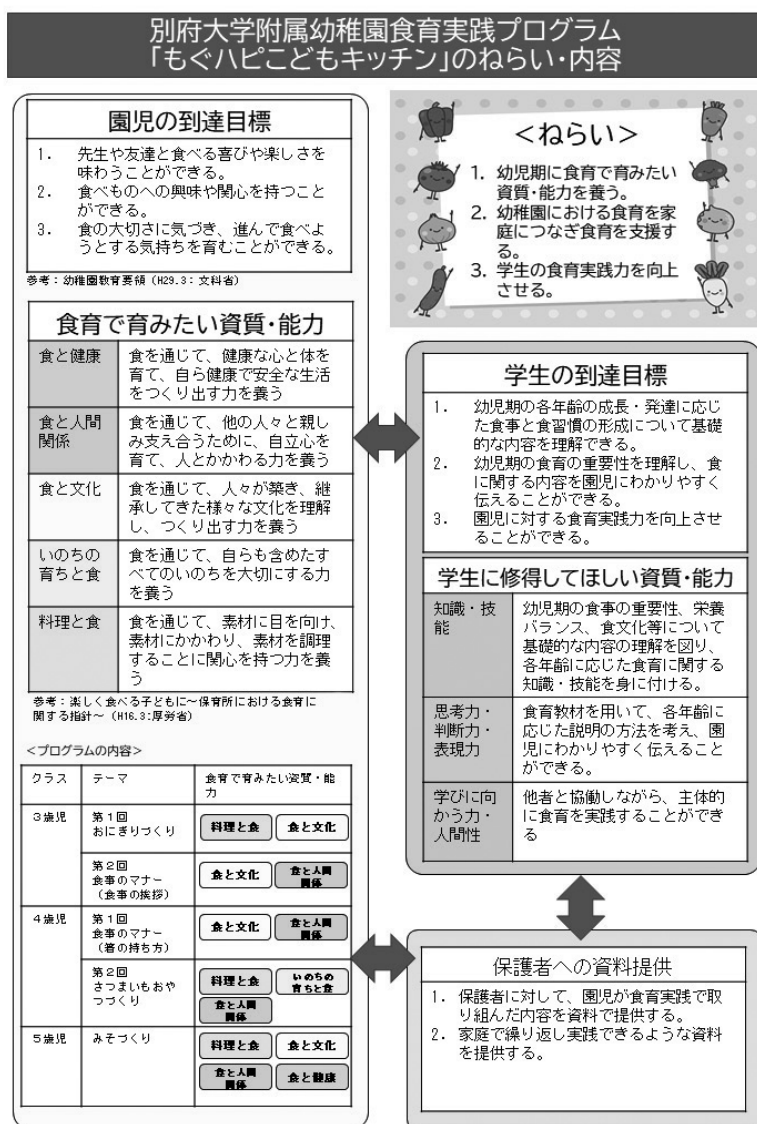


図１ 食育実践プログラム「もぐハピこどもキッチン」のねらいと内容

定には、幼稚園教育要領¹⁾に示す5領域「健康」における「ねらい及び内容」を参考にした。平成30（2018）年度に改訂された幼稚園教育要領には、幼稚園における食育についてその充実が記載されており、具体的には5領域「健康」において、ねらいを達成するために指導する内容として「先生や友達と食べることを楽しみ、食べ物への興味や関心をもつ」とされている。また、幼児の発達を踏まえた指導を行うにあたって留意すべき事項として、「健康な心と体を育てるためには食育を通じた望ましい食習慣の形成が大切であることを踏まえ、幼児の食生活の実情に配慮し、和やかな雰囲気の中で教師や他の幼児と食べる喜びや楽しさを味わったり、様々な食べ物への興味や関心をもったりするなどし、食の大切さに気づき、進んで食べようとする気持ちが育つようにすること」とされている。これらの内容が網羅できるように、ねらい①の到達目標は、1. 先生や友達と食べる喜びや楽しさを味わうことができる、2. 食べものへの興味や関心を持つことができる、3. 食の大切さに気づき、進んで食べようとする気持ちを育むことができる、の3つを設定した。

本プログラムの内容は、図1に示す通り、3歳児でおにぎりづくりと、食事のマナー（食事の挨拶）、4歳児で食事のマナー（箸の持ち方）とさつまいもおやつづくり、5歳児でみそづくりをテーマにして食育を実践した。各年齢児の食育実践で「食育で育みたい資質・能力」については、保育所における食育に関する指針ではあるが、厚生労働省の「楽しく食べる子どもに～保育所における食育に関する指針～」(平成16年3月29日)²⁾を参考にした。この指針では3歳以上児の食育の内容については、食と子どもの発達の観点から、「食と健康」「食と人間関係」「食と文化」「いのちの育ちと食」「料理と食」の5項目（以下食育の5項目）について、そのねらいと内容が示されている。各年齢児のプログラムにおいて、食育で育みたい資質・能力を食育の5項目から選択して設定し、3歳児から5歳児までの3年間の食育活動を通して食育の5項目すべてが修得できるようにした。

ねらい②に対応する「保護者への資料提供」については、1. 保護者に対して、園児が食育実践で取り組んだ内容を資料で提供する、2. 家庭で繰り返し実践できるような資料を提供することを目標にした。

ねらい③に対応する「学生の到達目標」は、1. 幼児期の各年齢の成長・発達に応じた食事と食習慣の形成について基礎的な内容を理解できる、2. 幼児期の食育の重要性を理解し、食に関する内容を園児にわかりやすく伝えることができる、3. 園児に対する食育実践力を向上させることができる、の3つを設定し、学生に修得してほしい資質・能力（知識・技能、思考力・判断力・表現力、学びに向かう力・人間性）を定めた。

本研究では、各年齢児で実施した食育実践プログラムの内容について、ねらい①②に対応する到達目標の評価として、園児と一緒に参加したクラスを担当する幼稚園教諭を対象に、また、ねらい③に対応する到達目標の評価として参加した学生を対象にしてアンケート調査票による回答を得て、効果的な食育の実践方法の検討に役立てるとともに、学生の食育実践力を高めるための教育効果の検討を行うことを目的とした。なお、本食育実践プログラムは年間を通したプログラムではあるが、食物栄養科2年生全員が参加する「前期プログラム」の内容について調査研究を行った。

2. 方法

（1）対象

調査対象は、食育実践プログラムのうち令和5年4月～令和5年8月までに実施した前期プログラムの内容について、参加した園児のクラス担任（幼稚園教諭）3歳児クラス（もも組、うめ組）2名、4歳児クラス（たんぽぽ組、すみれ組）2名、5歳児クラス（ふじ組、あじさい組）2名の合計6名と、食物栄養科2年生51名とした。上記の対象者においてアンケートに回答した者のうち、アンケートデータの研究利用に同意した者（幼稚園教諭6名、食物栄養科

2年生51名)を解析対象とした。

(2) 食育実践プログラムの実施内容

別府大学短期大学部食物栄養科2年生51名が、別府大学附属幼稚園の3歳児(もも組17名、うめ組17名)、4歳児(たんぼぼ組19名、すみれ組18名)、5歳児(ふじ組19名、あじさい組

19名)の園児を対象にした食育実践プログラム「もぐハピこどもキッチン」を実施した。前期開講科目である応用栄養学実習および調理実習Ⅱの授業の一環で本プログラムの前期内容を実施した。前期食育実践プログラムのテーマ、食育実践の内容、保護者への資料提供について表1に示した。

表1 前期食育実践プログラムの概要

	テーマ	食育実践の内容	保護者への資料提供
3歳児	おにぎりづくり	おにぎりづくりの紙芝居や食育パネルを用いた食育実践 ①おにぎりを題材にした紙芝居の読み聞かせ ②おにぎりの握り方をパネルで説明 ③おにぎりの具材のクイズ ④おにぎりづくりの指導	①園児配布用「おにぎりメダル」の持ち帰り
4歳児	食事のマナー(箸の使い方)	おはしの持ち方、使い方を楽しく学べる食育実践 ①パネルと大きいおはしを使って説明 ②オリジナル教材を使いながら練習 ③おはしを題材にした紙芝居の読み聞かせ	①子どもが持ち帰る「練習用ワークシート」の活用 ②園での当日の実践内容を紹介するおたよりを配付
5歳児	みそづくり	みそづくり食育パネルを用いた食育実践 ①大豆が畑で育ち収穫されるまでの過程をパネルで説明 ②大豆からできた食べものをパネルで紹介 ③みその作り方をパネルで説明 ④みそづくりの指導	①おうちでかんたん「みそづくり」レシピの提供 ②振り返り資料「みそづくりのなぞなぞあそび」の配付

表2 幼稚園教諭のアンケート調査票

幼稚園教諭による食育実践プログラムの調査

()歳児 ()組

※下記の問いについて、最もあてはまる番号に○をつけてください。

問1. 園児の関心度はどの程度でしたか？

()

①関心を持った

()

②どちらともいえない

()

③関心を持たなかった

問2. 園児の参加態度はどうでしたか？

()

①積極的であった

()

②どちらともいえない

()

③積極的ではなかった

問3. 食育の内容は園児の発達段階に対応していましたか？

()

①適している

()

②どちらともいえない

()

③適していない

問4. 園児は食育活動を体験して、以前より食べ物に関して興味・関心を持つようになりましたか？

()

①興味・関心を持つようになった

()

②興味・関心を少し持つようになった

()

③今までと変わらない

※自由記述でご意見をお聞かせください。

問5. 食育の内容について、気づいた点や感想をお聞かせください。

①良かった点

②難しかった点

③課題・提案

表3 学生のアンケート調査票

学生による食育実践プログラムの調査内容

No.

Q. 2年生4月(前期開講時)をゼロ(0)としたときの伸長度合いを評価してください。

問1. 以前より、幼児期の食事の重要性、栄養バランス、食文化等について基礎的な理解を固めるようになりましたか？

0

1

2

3

4

以前と変わらない

大変よく伸びた

問2. 以前より、各年齢の成長・発達に応じた食育に関する知識・技術を身に付けたいと思いますか？

0

1

2

3

4

以前と変わらない

大変よく伸びた

問3. 以前より、食育教材を用いて、各年齢に応じた説明の方法を考えることができるようになりましたか？

0

1

2

3

4

以前と変わらない

大変よく伸びた

問4. 以前より、食育教材を用いて、園児にわかりやすく伝えることができるようになりましたか？

0

1

2

3

4

以前と変わらない

大変よく伸びた

問5. 以前より、他者と協働しながら、主体的に食育を実践することができるようになりましたか？

0

1

2

3

4

以前と変わらない

大変よく伸びた

①良かった点

問6. 食育実践をとおして良かった点、難しかった点、課題・提案内容をお聞かせ下さい。

②難しかった点

③課題・提案

(3) 調査内容

アンケート調査の実施時期は、前期授業終了後の8月とした。

幼稚園教諭を対象とするアンケート調査は、無記名式（園児のクラス年齢のみ記入）にて実施し、園児に対する食育実践の評価に関して、園児の関心度、園児の参加態度、食育の内容が園児の発達段階に対応しているか、園児の食に関する興味・関心度について調査を行い（表2）、結果を回答数で表した。自由記述では良かった点と課題・提案について回答を得た。

また、食物栄養科2年生を対象とするアンケート調査は、無記名式（ナンバリング）にて実施し、学生自身の評価（食育実践力の自己評価）に関して、3つの評価の観点（知識・技能、思考力・判断力・表現力、学びに向かう力・人間性）について、2年生4月（前期開講時）をゼロ（0）としたときの伸長度を4段階（0：以前と変わらない、4：大変よく伸びた）で評価する内容とし（表3）、結果は平均値±標準偏差で求めた。

また、それぞれの調査において、食育の内容で良かった点、難しかった点、課題・提案を自由記述で回答を得た。学生から得られた自由記述の回答内容の分析には、計量テキスト分析ソフトであるKH Coderを使用した³⁾⁴⁾。自由記述内に含まれるすべての語について、出現回数を分析後、共起ネットワークを分析して自由記述内にある単語の共起性を確認した。

(4) 倫理的配慮

本研究は、別府大学・別府大学短期大学部研究倫理審査委員会による承認（2022-7）を受けて実施した。

3. 結果

(1) 園児に対する食育実践の評価（幼稚園教諭の評価）

園児の関心度、園児の参加態度、食事内容（発達段階との適合）、食育の効果について表4に示した。

表4 園児に対する食育実践の評価 (件)

項目	選択肢	3歳児	4歳児	5歳児
園児の関心度	①関心を持った	1	2	2
	②どちらともいえない	1	0	0
	③関心を持たなかった	0	0	0
園児の参加態度	①積極的であった	2	2	2
	②どちらともいえない	0	0	0
	③積極的ではなかった	0	0	0
食育の内容が園児の発達段階と適合していたかどうか	①適している	2	2	2
	②どちらともいえない	0	0	0
	③適していない	0	0	0
園児が食育活動を体験して、以前より食べ物に関して興味・関心を持つようになったか	①持つようになった	0	1	0
	②少し持つようになった	2	1	0
	③今までと変わらない	0	0	2

園児の関心度は、3歳児クラスでは「関心を持った」と回答したクラスが1件、「どちらともいえない」と回答したクラスが1件であった。4歳児と5歳児クラスでは「関心を持った」がそれぞれ2件ずつであり、全クラスが関心を持ったことがわかった。

園児の参加態度は、3歳児、4歳児、5歳児クラスで「積極的であった」の回答がそれぞれ2件ずつであり、全年齢・クラスで園児が積極的に参加したことがわかった。

食育の内容が園児の発達段階と適合していたかどうかの結果は、3歳児、4歳児、5歳児クラスで「適している」の回答がそれぞれ2件ずつであり、全年齢・クラスで園児の発達段階に適合した食育の内容であったことがわかった。

園児が食育活動を体験して、以前より食べ物に関して興味・関心を持つようになったかの結果は、3歳児クラスでは「少し持つようになった」が2件、4歳児クラスでは「持つようになった」が1件、「少し持つようになった」が1件であった。5歳児クラスでは「今までと変わらない」が2件であった。前期1回ずつの食育実践では、食べ物に関する興味・関心を持たせることは難しいことがわかった。

(2) 幼稚園教諭のコメント (自由記述)

幼稚園教諭の自由記述で得られた良かった点と、課題・提案の主なコメントについて表5に示した。良かった点について、テーマで取り上げる内容、手作りの玩具や紙芝居、パネル等の説明内容、学生の園児に対する説明の仕方や子どもに対する接し方、保護者への資料提供について高評価が得られた。

また、課題と提案については、頑張った子どもたちにご褒美として提供したメダルの構造上の改善点や、おにぎりを盛り付ける食器の改善点に関するコメントがあった。

(3) 食育実践力の評価 (学生の自己評価)

学生の食育実践力の伸長度について表6に示

した。問1～問5までのすべての設問に対して平均値が2を超えており、食育実践力が向上したことが伺えた。特に、問1、問4、問5の平均値が高い評価を得た(2.69、2.57、2.71)。以前と比べると幼児期の食事の重要性、栄養バランス、食文化等について基礎的な理解、食育教材を用いて、園児にわかりやすく伝える力、他者と協働しながら主体的に食育を実践する力の修得ができたようであった。

問2と問3の設問に対する平均値は2を超えていたものの低めの評価であった(2.10、2.12)。各年齢の成長・発達に応じた食育に関する知識・技術、各年齢に応じた説明の方法を考える力の修得について、難しさを感じる学生が多かったことが推測できた。

表5 幼稚園教諭のコメント

	主なコメント
良かった点	「おにぎり」という身近な食べもの、大体の子が好きな食べもので興味を持ちやすかった。
	子どもが興味を持って取り組むことができるように玩具や紙芝居を用いてわかりやすく指導してくださったことで、子どもたちも興味を持ち箸を正しく使おうと意識することができた。
	4歳の発達段階に適した内容で、普段なかなか細かく指導できていなかったの、とても勉強になった。
	保護者向けの手紙で、家庭と園で正しいお箸の持ち方が学べとても良い機会となった。
	子どもたちがわかりやすいように、紙芝居で説明してくれたので、より関心を持ちやすかった。
	1人の子に対して、学生さんが1～2人でサポートしてくれたので、子どもが「出来た!」と成功体験となった。
	学生さんたちも優しくわかりやすく接してくれたので、子どもたちも安心して参加していたように感じた。
課題・提案	最後にもらったメダルをとても喜んでいたが、リボンが外れたり、パーツが壊れたりして泣いていたので、丈夫に作っていただけたらありがたい。
	子どもが「できたよ～」とおにぎりを見せたくなくて持ち運ぶので、おにぎりを入れるお皿が紙皿で、軟らかくておにぎりが落ちそうで怖かった。固い入れ物やバックなどでも良い。

表6 学生の食育実践力の伸長度

(n=51)

評価の観点	評価内容	平均	標準偏差
知識・技能	問1. 以前より、幼児期の食事の重要性、栄養バランス、食文化等について基礎的な理解を図れるようになりましたか?	2.69	0.65
	問2. 以前より、各年齢の成長・発達に応じた食育に関する知識・技術を身につけたと思いますか?	2.10	0.85
思考力・判断力・表現力	問3. 以前より、食育教材を用いて、各年齢に応じた説明の方法を考えることができるようになりましたか?	2.12	0.93
	問4. 以前より、食育教材を用いて、園児にわかりやすく伝えることができるようになりましたか?	2.57	1.04
学びに向かう力・人間性	問5. 以前より、他者と協働しながら、主体的に食育を実践することができるようになりましたか?	2.71	0.86

(4) 学生の良かった点に関する主なコメント

学生の「良かった点」に関する主なコメントを表7に示した。知識・技能に関する評価コメントでは、「園児に教えるために、自分自身が改めて勉強する機会になり理解できた。」「園児と交流して食育について学ぶことができ、自分の力になった。」など、園児に教えることをき

かけに、自身がこれまでの学んだことを振り返り理解が深まったことがわかった。

思考力・判断力・考察力に関する評価コメントでは、園児に対する話し方、言葉遣い、言葉選びについて学ぶことができたとのコメントが多かった。

学びに向かう力・人間性に関する評価コメントでは、「園児とコミュニケーションを取りながら実践できた。」「積極的に発言できるようになった。」「人前で発表できて苦手部分を克服できた。」「メンバーと協同作業ができた。」「子どもの嬉しそうな反応や楽しそうな様子を見られた。」などのコメントが見られた。

「良かった点」の自由記述内で含まれるすべての語について、KH Coder により分析した結果、総抽出語数870語、抽出文数45文であり、語句の出現回数は、「できる」「子ども」「園児」「する」「食育」「実際」「良い」「学ぶ」「自分」などが多く確認された(表8)。また、共起ネットワーク図の結果より、出現回数が多く、共起関係が強いものを抽出すると、1つ目は「子ども」「実際」「接する」、2つ目は「園児」「食育」「学ぶ」、3つ目は「触れ合う」「良い」「機会」、4つ目は「自分」「自身」「箸」、5つ目は「活動」「楽しい」、6つ目は「伝わる」「楽しむ」の関係性が強かった(図2)。

表7 学生の良かった点に関する主なコメント

評価の観点	主なコメント
知識・技能	食育について知識を身につけられて、楽しく活動できた。
	園児に教えるために、自分自身が改めて勉強する機会になり理解できた。
	園児と交流して食育について学ぶことができ、自分の力になった。
	子どもと触れ合いつつ、お互いが勉強する形でとても良いと思う。
	実際に子どもに接することで、授業ではわからなかった事が理解できた。
思考力・判断力・表現力	各年齢にあった接し方や説明の仕方などを学ぶことができた。
	実際に園児に食育することで、話し方や雰囲気作りなどを経験出来て良かった。

思考力・判断力・表現力	実際に園児に触れ合うことができ、園児への話し方、言葉づかい、言葉選びを学び、実践できたのがとても良かった。
	ただ話をするだけでなく、子どもたちが実際に触ったり、見たりすることで食に興味を持ってもらえることがわかった。
	子どもの立場に立って、どう教えたら伝わりやすいかを自分なりに工夫して幼児に楽しんでもらえたこと。
学びに向かう力・人間性	園児とコミュニケーションを取りながら、食育を実践できた。
	園児の前で食育媒体を使って発表することで、自分自身も積極的に発言できるようになり、食育の力が身について良かった。
	この活動を通して、人前で発表することができるようになり、自分の苦手な部分を克服できた。
	班のメンバーやクラスメイトとの協同作業ができたこと。 子どもの反応を見ることができ、嬉しそうな反応や楽しそうな様子を自分の目で見たこと。

表8 学生自由記述（良かった点）の頻出語

抽出語	品詞	出現回数	抽出語	品詞	出現回数
できる	動詞B	31	コミュニケーション	名詞	4
子ども	名詞	21	関わる	動詞	4
園児	名詞	17	持つ	動詞	4
する	動詞B	13	実践	サ変名詞	4
食育	タグ	11	身	名詞C	4
実際	副詞	10	年齢	名詞	4
良い	形容詞(非自立)	10	かかわる	動詞B	3
学ぶ	動詞	8	つく	動詞B	3
自分	名詞	8	とても	副詞B	3
触れ合う	動詞	7	楽しむ	動詞	3
良い	形容詞	7	機会	名詞	3
ない	否定助動詞	6	教える	動詞	3
なる	動詞B	6	見る	動詞	3
楽しい	形容詞	6	自身	名詞	3
接す	動詞	6	接する	動詞	3
わかる	動詞B	5	説明	サ変名詞	3
活動	サ変名詞	5	体験	サ変名詞	3
反応	サ変名詞	5	伝わる	動詞	3
			箸	名詞C	3

※頻出回数3回以上

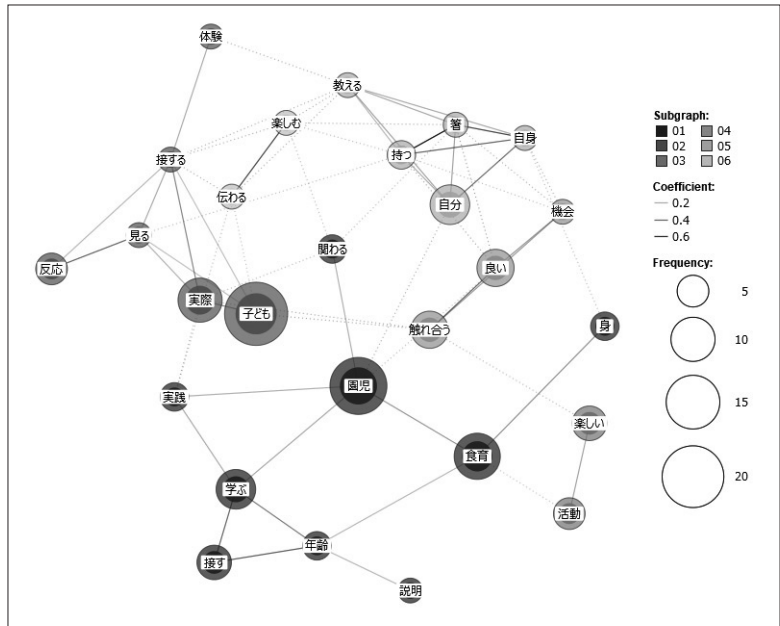


図2 学生自由記述（良かった点）共起ネットワーク

（5）学生の難しかった点に関する主なコメント

学生の「難しかった点」に関する主なコメントを表9に示した。思考力・判断力・考察力に関する評価コメントでは、「園児への接し方や話し方が理解できておらず難しかった。」「学年に合わせた媒体の説明や伝え方が難しかった。」「子どもにどのような伝え方をしたら理解してくれるのか考えるのに時間がかかった。」などのコメントが多かった。

学びに向かう力・人間性に関する評価コメントでは、活動中に騒いでいる子どもに対する声掛けや、子どもの反応が無かったときの対応などが難しかったとの回答が見られた。

「難しかった点」の自由記述内で含まれるすべての語について、KH Coderにより分析した結果、総抽出語数502語、抽出文数30文であり、語句の出現回数は、「難しい」「する」「わかる」「子ども」「伝える」「園児」「やすい」「言葉」「ない」「説明」などが多く確認された(表10)。また、共起ネットワーク図の結果より、出現回数が多く、共起関係が強いものを抽出すると、1つ目は「難しい」「子ども」「伝える」「言葉」、

表9 学生の難しかった点に関する主なコメント

評価の観点	主なコメント
思考力・判断力・表現力	園児への接し方や話し方が理解できておらず難しかった。
	子どもの年齢によって接し方が異なるので、学年に合わせた媒体の説明や伝え方が難しかった。
	難しい言葉は伝わらないので、どうしたらわかりやすく大事なことが伝えられるのかが難しかった。
	子どもの言葉遣いや集中力や性格に大きな差があり、一人ひとりに合わせて指導することが難しかった。
	子どもにどのような伝え方をしたら理解してくれるのか考えるのに時間がかかった。
学びに向かう力・人間性	活動中に騒いでいる子どもにどのように声掛けしたら良いかわからず難しかった。
	子どもの反応が無かったときは、それ相応の判断をもって導かないと難しいと思う。
	好奇心旺盛な子どもが色々なことに興味を持ちすぎて活動に集中できないときの対応がわからなかった。
	園児の対応や、どうしたら興味を持ってくれるかが難しかった。

2つ目は「年齢」「合わせる」「説明」、3つ目は「伝わる」「話す」の関係性が強かった（図3）。

表10 学生自由記述（難しかった点）の頻出語

抽出語	品詞	出現回数	抽出語	品詞	出現回数
難しい	形容詞	23	説明	サ変名詞	6
する	動詞B	12	できる	動詞B	5
わかる	動詞B	11	どう	副詞B	4
子ども	名詞	11	合わせる	動詞	4
伝える	動詞	10	接す	動詞	4
園児	名詞	9	年齢	名詞	4
やすい	形容詞（非自立）	8	理解	サ変名詞	4
言葉	名詞	7	伝わる	動詞	3
ない	否定助動詞	6	話す	動詞	3

※頻出回数3回以上

（6）学生の課題・提案に関する主なコメント

課題・提案に関するコメントは少なかったが、「これからも人前で何かを積極的にすることを頑張りたい。」「子どもとの接し方を勉強したい。」「子どもとの触れ合い（軽い遊び等）も実施すると良いと思う。」「グループワークでは、みんながまんべんなく活動に取り組めるよ

うにしてもらいたい。」「もう少し時間が欲しかった。」などの自身の取り組む姿勢、改善点や今後の提案に関するコメントが見られた。

4. 考察およびまとめ

本食育実践プログラムのねらい・内容および園児の到達目標は、幼稚園教育要領に記載された食育の推進で指導する内容を網羅して設定した。

幼稚園教諭における園児に対する食育実践の評価結果から、園児が食育の内容に興味・関心を持ち積極的に参加したことがわかり、ねらいと到達目標は概ね達成したことが伺えた。また、我々が食育の指導媒体を作成するにあたり、最も苦慮したのは各年齢児の発達段階に対応した食育の内容になっているかという点であったが、3歳児、4歳児、5歳児のすべてのクラスにおいて「適している」との評価が得られたため、食育の内容は発達段階に見合った内容であることがわかった。また、保護者への資料提供についても、その内容は適切であることがわかったが、園児に食育した内容を家庭でも

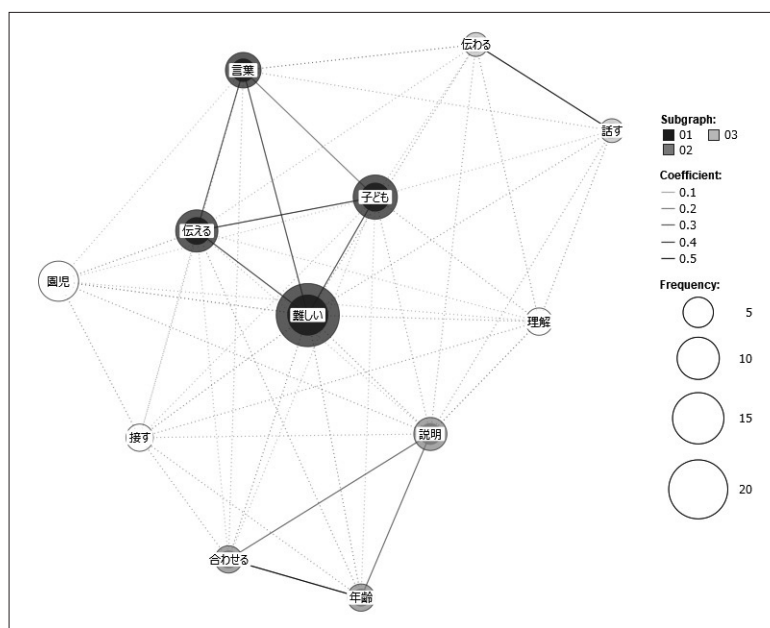


図3 学生自由記述（難しかった点）共起ネットワーク

繰り返し実践できるような資料作りについては今後改善と工夫が望まれる。

学生自身の食育実践力の自己評価結果から、学生に修得してほしい資質・能力を踏まえた到達目標を概ね達成し、幼児期の各年齢の成長・発達に応じた食事と食習慣の形成に関する基礎的な内容の理解、食に関する内容を園児にわかりやすく伝える力、園児に対する主体的な食育実践力について、以前と比較して向上したことが示唆された。良かった点では、実際に子どもに対して食育実践ができること、園児に食育で関わること、園児に触れ合う良い機会であったこと、自分自身が学び直す良い機会になった、園児に対する話し方、言葉遣い、言葉選びについて学ぶことができたことがあげられ、活動全体としては「楽しかった」というコメントが多かった。一方で、難しかった点としてあげられたのが、子どもに説明するときの接し方や言葉選び、各年齢に合わせた説明の難しさであった。この内容は良かった点でもあげられていたため、学べて良かったが同時に難しさも感じたようである。授業を通して、食育実践の内容を計画して指導媒体を作成し、発表練習を何度も繰り返して実践したが、その際に子どもに対する接し方や言葉の選び方、各年齢に合わせた説明の仕方について学習する時間が設けられていなかった。この点については、授業を担当する管理栄養士教員だけでなく保育の専門家を交えた学習を取り入れる必要性を実感した。

以上、本食育実践プログラムを実施することにより、園児が食べものへの興味・関心を持ち、幼稚園における食育を家庭につなぎ食育を支援することができた。さらに学生たちが主体的に楽しく食育実践に取り組み、食育実践力が向上する等、学びの利点が多いことがわかった。今回の調査で得られた結果と課題を参考にして、食育実践プログラムの内容改善に努め、園児の食育、家庭との連携、学生の食育実践力の向上を目指した食育活動を実践することで、食育実践力の高い栄養士養成を目指していきたい。

5. 謝辞

本調査にご協力いただきました別府大学附属幼稚園の皆様、別府大学短期大学部食物栄養科学生の皆様に感謝申し上げます。

6. 引用文献

- 1) 文部科学省 (2018)「幼稚園教育要領解説」
https://www.mext.go.jp/content/1384661_3_3.pdf
最終閲覧2024年10月30日
- 2) 厚生労働省 (2004)「『楽しく食べる子どもに～保育所における食育に関する指針～』(概要)」
<https://www.mhlw.go.jp/shingi/2007/06/dl/s0604-2k.pdf> 最終閲覧2024年10月30日
- 3) 計量テキスト分析ソフト「KH Coder」公開ページ
<https://khcoder.net/>最終閲覧2024年10月30日
- 4) 樋口耕一, 計量テキスト分析ツール KH Coder による分析結果の再現性—KH Coder による再現と R・SPSS による再分析や検算, 立命館産業社会論集, 2024, 60 (2), pp121-130.